

2. 藻場・干潟の変遷と現状

(1) 藻場・干潟の場の喪失

瀬戸内の藻場・干潟が分布する沿岸浅海域は、特に戦後の高度経済成長期の工場用地確保のため埋立てられ、明治時代以降からの埋め立てを含めると、瀬戸内全域での埋め立て面積は、約 46,000ha (460k m²) にのぼり、これは瀬戸内海最大の島である淡路島（兵庫県）の 3/4 に匹敵する面積である。現在、瀬戸内海における埋め立て事業は、瀬戸内海環境特別措置法により十分配慮しなければならないと述べられており、法施行後瀬戸内海の埋め立て免許の面積は減少した。しかしながら、干潟の埋め立てはそれ以降も続いている。（図4）

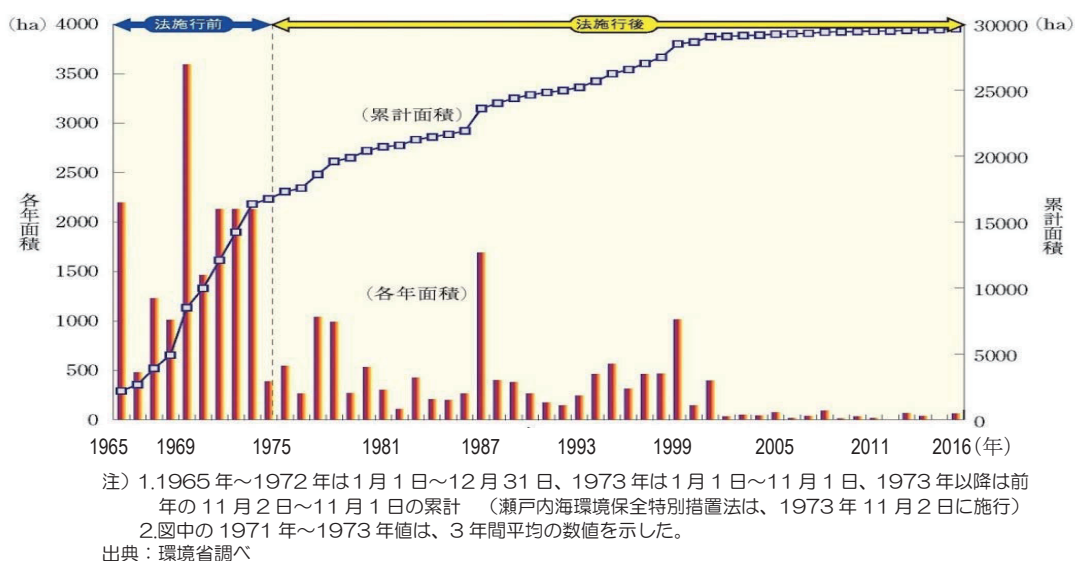


図4 瀬戸内海における埋め立て面積の推移

(2) 藻場・干潟の面積の推移

埋め立てによる直接的な影響と工場排水、生活排水や近年の温暖化に伴う水温上昇等による水環境悪化影響により藻場・干潟の面積が大幅に減少した。

瀬戸内海の主要な藻場のアマモ場は 1960 年には 22,635ha (226.35 km²) あったが、1990年には 6,400ha (64 km²) に減少した。（図5）

干潟についても 1898 年から 2006 年度までに約 5 割が消失したが、1989～90 年度から 2006 年度までにわずかではあるが増加している。（図6）

なお、環境省が 2015～2017 年度に実施した最新の藻場・干潟調査（衛星画像使用）は面積測定方法が異なるため比較が難しく、全域での現況は表5に記載するにとどめた。

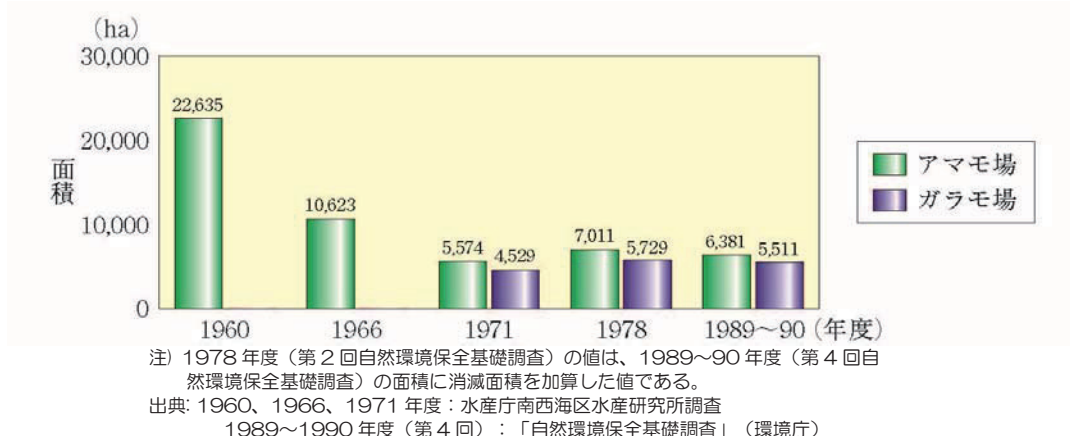


図5 瀬戸内海における藻場面積の推移（響灘を除く）